翼

―つばさ―

空港圏の明日へ No.3

米貨物機炎上事故

町長　佐藤　晴彦

成田国際空港は昨年、開港30周年を迎え、その間、事故も無く世界一安全な空港と言われておりました。

しかし、残念ながら、本年3月23日早朝、開港以来はじめての航空機事故が発生してしまいました。事故を起こしたのは、中国広州発成田行きの貨物機フェデックス便で、着陸に失敗し炎上、米国人乗務員2人の尊い命が失われてしまいました。

成田空港は4，000メートルと2，180メートルの2本の滑走路で構成されており、今回の事故は長い滑走路で発生し、他方の滑走路では大型機の離発着が不可能な為、その後の運航に大きな支障が発生し、101便が欠航、50便が羽田空港をはじめ各地の空港に分散させ窮状をしのぎました。

その後間もなく、空港会社の役員が当町に、事故の説明と謝罪に訪れましたので、安全対策に万全を期すよう要請したところであります。

また、来年3月の供用開始を目指して整備を進めておりました2，180メートル滑走路の2，500メートル化の北伸工事が順調に進んでおり、今年の秋には完成の目途が立ったため、工事終了後は速やかに供用を開始したいとのことでありました。なお、早期に供用開始する場合でも、来年3月までの離発着回数は現状どおりとし、22万回への容量拡大については、必要な施設等が整備される来年3月からということでありました。

町といたしましては、約束の範疇であり、この利用に異議を申すものではなく、より安全の確保を目指すものとして捉えており同意する方向で進めていただくこととしました。

2本の飛行ルート直下に位置する当町では、2，500メートル化により新たな騒音被害をもたらすものとご心配いただくところではありますが、近年の航空機は同じ部品でも鉄やジュラルミンなどから炭素繊維などへの利用の拡大により以前の航空機と比べ格段の軽量化が図られ、更には一時期の燃料の高騰などにより合理的な旅客輸送を目指し航空機の中型化が進み、それによって確実に騒音の数値が減ってまいりました。

成田国際空港周辺の航空機騒音の実態を把握するために設置されている103局の航空機騒音常時監視局は㈶成田空港周辺地域共生財団が一括管理しておりますが、その内容は日々インターネットでの公表もされています。

そのような中、環境省は現在の評価方式が地域住民の実感にそぐわないとの専門家からの指摘を受け、現在基準のWECPNL（加重等価平均感覚騒音レベル）からLden（時間帯補正等価騒音レベル）への変更を平成25年4月より行うことを発表しました。

これは、東南アジアを中心とした空港で採用されている現行の方式では2本の滑走路が存在するとき、2本の滑走路に離着陸する全てを対象とした数値よりも、どちらか片方のみを測定する方が高い数値が出てしまいわゆる逆転現象が起きてしまい、成田空港についても103局の監視局のうち27局でこのような現象が生じているためで、欧米を中心に測定されている方式に変更すると言うことです。

今後も町といたしましては、空港会社や共生財団などと連絡を密にして、より一層の安全を目指すとともに、情報開示と国際空港があることの財政的優位性を発揮してより良い町づくりに努めてまいりたいと思います。